

「播磨圏域ものづくりプラットフォーム」趣意書

1991年（平成3年）7月、21世紀播磨科学技術フォーラムは、兵庫県立大学を中心にして 高度産業科学技術研究所（当時の姫路工業大学工学基礎研究所）に事務局を置き、播磨の研究機関、企業を会員として、大型放射光施設、中型放射光の産業利用、産学連携を通じた地域産業への貢献を目的とし活動を始めました。近年では、水素社会・3Dプリンター・先端医療・航空機・自動運転等、技術革新を見据えた産業構造の変化をテーマにあげてセミナー、交流を重ねることで「知的交流の場を提供」し関係各所からは一定のご評価をいただいております。

そして、設立以来30年を経て今、日本経済は大きな変革期を迎えております。

産業の構造的変化は、技術面に加えて、生産年齢人口の減少や事業承継問題、働き方改革への対応、DX（デジタルトランスフォーメーション）、加えて地球温暖化対策など、如実に表れてきています。新型コロナウイルスの発生は、今の社会の脆弱さを露わにし都市圏への集中リスクなどの課題も明らかになりました。

これら新たな諸課題に対応するため、SDGsを標榜する近未来を展望するためには、地域創生が叫ばれる中、これまで以上に、企業同士並びに企業と大学等研究機関との連携を強化することが重要であり、さらに地域の産業政策の提言、新事業の創出に向けた努力が求められます。そのためにも、21世紀播磨科学技術フォーラム設立の意義を継承しつつ、地域創生に向けて又広域連携の実現に向けて兵庫県立大学、播磨圏域の商工会議所、地域企業が、地域ビジョンのもとプラットフォーム機能を持つ活動が求められる、との強い思いに至りました。

この思いのもと、設立30周年を迎える本年を機に、21世紀播磨科学技術フォーラムを播磨圏域を一体とした新たな産学官の枠組に発展的に改組することを提起いたします。

新たな枠組みは、名称を「播磨圏域ものづくりプラットフォーム」（仮称）と改め、事務局を姫路ものづくり支援センター（姫路商工会議所内）に移します。播磨地域が将来にわたって成長力を確保するため、兵庫県立大学と行政、各商工会議所の連携による播磨地域のものづくり産業の発展に向けた組織としてまいります。

引き続き、皆様からのご支援、ご協力をお願い申し上げますとともに、21世紀播磨科学技術フォーラムの改組の趣旨に御賛同いただけますよう、お願い申し上げます。

2021年（令和3年）8月4日